原稿フォーマット

**和文誌●巻●号　原稿**

**執筆規程を必ず確認して下さい．**

**投稿時には説明や記載例等を消してご使用下さい．**

**著者情報は記載しないでください．**

＜原稿の分量について＞

フォーマットを使用した場合、

投稿時の枚数入力で下記のように計算されます（少数第1位まで、2位以下は切り上げ）。

2割の超過でシステムがロックされて投稿できません。

要約(和文、英文を合わせて 1.0 枚固定) + 本文(本文、文献を合わせた枚数の 3 分の 2) + 図表総量

(1) 投稿原稿の区分（いずれか１つを選択）

総説（Review article）

論説（Essay）

原著（Original paper）

短報（Short report）

資料（Material）

教育・実践研究（Educational and practical research）

症例報告／事例報告(Case report)

(2) 表題（和文，英文）

副題は，和文は全角ダッシュ，英文はコロンでつなぐ．

英文は，冠詞と前置詞を除き，語頭を大文字で始める．

＜記載例＞（和文）高校生と大学生のソーシャル・サポート―発達的差異の考察―

（英文）Comparison of Social Support of High School and University Students: Inspection of Its Developmental Changes

(3) ランニングタイトル（和文で30字以内）

＜記載例＞高校生と大学生のソーシャル・サポート

(4) Key words（英語で5つ以内，固有名詞や略語以外は小文字で始める）

　 ＜記載例＞high school students, university students, developmental changes, Rorschach test, TAT

**和文要約**

**英文要約**

**1. 緒言**

　生活の中で様々な問題に直面したとき，自らの支えとなる関係をもちうるかどうかは，個人が心身の健康を維持していく上で，重要な意味をもつ．ソーシャル・サポート研究は従来からこのことを指摘してきた1-4)．ソーシャル・サポートは，他者から得られる有形・無形の援助2, 3)，社会的ネットワーク†1）の中でやりとりされる資源の一つ3)などのように様々な概念化がなされている．Caplan4)は「・・・」（p.91）と指摘している．・・・Caplan4)はまた「・・・・・・」（pp.233-234）とも述べている．

川崎と江草5) は・・・．Kawasaki & Egusa6)は・・・．

発達的差異（DC：Developmental change）とは・・・．

**2. 方法**

**2.1　被調査者**

　高校生168名（男子84名，女子84名）と大学生162名（男子82名，女子80名）を被調査者とした．高校生は1～3年生で，年齢の平均±標準偏差は16.6±0.8歳・・・．

**3. 結果**

**3.1　記述統計量**

　サポートの入手可能性，サポート源の人数，サポート源との関係に対する満足度，精神的不健康の各指標について，平均値と標準偏差を表1に示す．

表1

**4. 考察**

　本研究では・・・．これはSarason et al.16)や・・・．項目は久田ら23)の・・・．

**注**

†1）社会的ネットワークとは・・・の一つである．

**文献**

1) ・・・・

2) ・・・・

3) ・・・・

**※執筆規程をよくご確認のうえ、誤りのないように記載してください。**

**＜原則＞**

**著者の後ろのコロンと副題前後のダッシュは全角，その他のピリオド，コンマは半角．**

**題名と出版情報の後ろはピリオド，他の区切りはコンマ．**

**英語論文の掲載誌名と英語図書の書名はイタリック．**

**＜記載例＞**

**雑誌論文の場合（基本）**

\*) 尾見康博：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究. 教育心理学研究, 47, 40-48, 1999.

\*) Sarason IG, Levine HM, Basham RB and Sarason BR：Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology,* 44, 127-139, 1983.

【特殊なケースについて、以下のように扱う】

**印刷中（掲載は決定しているが未刊行）**：雑誌名の後にその旨を記載

\*) 尾見康博：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究. 教育心理学研究, 印刷中.

\*) Sarason IG, Levine HM, Basham RB and Sarason BR：Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*,in press.

**早期公開（冊子体が刊行される前にオンライン上で公開）**：雑誌名の後にその旨を記載

\*) 尾見康博：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究. 教育心理学研究, 早期公開.

\*) Sarason IG：Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*,Advance online publication.

**オンライン公開のみ（冊子体なし）の雑誌論文でDOIが付与されている**：末尾にDOIを記載

\*) Kawai N, Miyata H, Nishimura R and Okanoya K：Shadows alter facial expressions of Noh Masks. *PLoS ONE*, 8, e71389, 2013, https://doi.org/10.1371/journal.pone.0071389.

**著者が10名を超える（11名以上）**：9名まで列記し、その後省略のうえ最後の著者を記載

\*) 尾見康博, 河合重治, 斎藤新之助, 桜井克己, 菅原光彦, 武村幸三, 川崎祐信, 江草安彦, 岡田喜篤, …根ケ山勝彦：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究. 教育心理学研究, 47, 40-48, 1999.

\*) Kawai N, Kudo E, Saito S, Sakurai K, Sugawara K, Takemura K, Kawasaki S, Egusa Y, Okada K, ...Negayama K：Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology,* 44, 127-139, 1983.

**図書（単著）の場合**

\*) 高橋惠子：人間関係の心理学―愛情のネットワークの生涯発達―. 東京大学出版会, 東京, 2010.

\*) Erikson EH：*Identity and the life cycle: Selected papers*. International Universities Press, New York, 1959.

**図書（編著書）の場合**

\*) 二宮克美：家族関係と青年. 久世敏雄編, 青年心理学―その多様な発達の軌跡―, 放送大学教育振興会, 東京, 60-73, 1996.

\*) Rosenberg J：Effects of medications on biological levels of industrial chemicals. In Fiserova-Bergerova V and Ogata M eds, *Biological monitoring of exposure to industrial chemicals*, ACGIH, Cincinnati, 159-162, 1990.

**インターネット上の情報の場合**

\*) 厚生労働省：平成23年（2011）患者調査の概況. http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/11/, 2012. (2015.7.31確認)

\*) World Health Organization：*Global strategy to reduce harmful use of alcohol*. http://www.who.int/substance\_abuse/activities/gsrhua/en/, [2015]. (2015.7.31確認)

**図1　●●**

**表1 ○○**

**図表一覧**

**＜論文に占める図表の総量：4分の5ページ＞**

図1　●●　＜大きさ：4分の1ページ＞

図2　●●　＜大きさ：4分の1ページ＞

表1　○○　＜大きさ：4分の1ページ＞

表2　○○　＜大きさ：2分の１ページ＞

**注）２行目の“図表の総量”は、個々の図表が刷り上がり（論文の印刷刊行）時に占めると著者が想定した分量をすべて加算したもの。上記の例では、図１、図２、表１がそれぞれ1/4ページ、表２が1/2ページのため、　（1/4）×3 ＋ 1/2 ＝ 3/4＋2/4＝5/4 （1.25ページ）　となっている。**